



公益社団法人 茨城県農林振興公社
穀物改良部
〒311-4203 水戸市上国井町3118-1
TEL 029-239-6300 FAX 029-239-6880
https://www.ibanourin.or.jp

1. 令和6年度茨城県稲作・そば共進会表彰式開催

2月18日(火)、ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸において、茨城県・当公社共催「第68回稲作共進会及び第35回そば共進会表彰式」が、市町村穀物改良協会、農協、農業改良普及センターなど関係者59名の出席の下、開催されました。

主催者、来賓の挨拶に続き、審査長の県農業総合センター農業研究所草野謙三所長より各共進会の審査結果が報告され、その後、受賞者の表彰が行われました。

稲作共進会では、つくば市の(有)根本農場様が最優秀賞となり、特別賞として農林水産大臣賞を受賞しました。

(有)根本農場様は、主食用米を52ha栽培するほか、採種事業18haに取り組んでいます。農地中間管理機構を活用した規模拡大を図るための農地の集積、品質の項目や安全・安心への取り組みにおいての高評価が今回の受賞につながりました。

そば共進会では、美浦村の農事組合法人美浦エコアグリクラブ様が最優秀賞となり、特別賞として茨城県知事賞を受賞しました。

農事組合法人美浦エコアグリクラブ様は、令和5年7月に任意組合から農事組合法人となり、経営の効率化と体質強化に努めています。4年前からは採種事業にも取り組み、遊休農地を採種圃場として活用しています。これらに加え、品質の項目における高評価が受賞につながりました。

最後に、今回の稲作・そば共進会において、受賞された皆様におかれましては、日頃からの稲作及びそばの生産振興や品質向上、消費拡大等への取り組みや、弛まぬ努力に敬意を表するとともに、今後も地域のリーダーとして、より一層のご活躍をご期待申し上げます。

(受賞者一覧は、8ページに掲載)



審査長の県農業総合センター農業研究所 草野謙三所長



中央左：稲作共進会最優秀賞の(有)根本農場様

中央右：そば共進会最優秀賞の農事組合法人美浦エコアグリクラブ様

も く じ

1. 令和6年度茨城県稲作・そば共進会表彰式開催	1
2. 令和6年産大豆をふり返って ～夏季高温の影響を中心に～	2
3. 水稻品種「にじのきらめき」の高品質多収栽培方法	4
4. 米穀情勢について	6
5. がんばる種子生産者！(JA北つくば 岩瀬大豆採種組合)	7
6. 穀物改良部ニュース	8

- (1) 水陸稲種子生産委託会議を開催
- (2) 茨城県採種部会協議会視察研修を実施

※令和6年度茨城県稲作・そば共進会受賞者名簿

2. 令和6年産大豆をふり返って～夏季高温の影響を中心に～

茨城県農業総合センター 専門技術指導員室 寺門 ゆかり

1. 令和6年産大豆のふり返り

令和6年の夏は令和5年に続いて記録的な猛暑となり、農業総合センターでは5、7、8月と3回にわたって対策情報等を発信したほか、新聞等メディアにおいても農作物への影響についての関連記事が多く掲載されました。

それを受け、農業総合センターではこれからも続く温暖化傾向への対策を検討するため、県内で実際に確認された「高温の影響」や各普及センターが指導した「対策技術と実施状況および効果」についての調査を行いました。今回は、令和6年産大豆のふり返りとして、調査結果を抜粋してご紹介します。

【調査結果の概要（表1）】

- ・ 播種直後から生育全般を通じて適度な降雨があったため、出芽苗立ちを含め生育は概ね順調

に進みました。

一部地域では、令和5年のような干ばつによる落花や落莢が発生するリスクを鑑みて、開花期以降の畝間かん水を指導しましたが、実際に実施されたのはほんの一部にとどまりました。

・ 播種直後から生育全般を通じて高温傾向が続いたため、生育初期のチョウ目幼虫による茎葉の食害や、特に開花期以降～子実肥大後半にかけてのカメムシ類による吸汁害が平年より多く見られました。

これを受け、早めの防除や発生の長期化に応じた追加防除を指導したところ、適切に防除できたほ場においては着莢や子実肥大が良好となりましたが、実施時期がずれていたほ場等では、カメムシ類の吸汁被害によると思われる青立ちや不稔、被害粒の多発等による収量品質の低下が確認されました（写真1）。



写真1 カメムシ類の吸汁によると思われる不稔や子実の肥大阻害（左）、吸汁刺激によって誘発されたとと思われる「莢発芽」(右)

表1 茨城県におけるR6夏季の高温による影響調査結果(大豆部分抜粋)

確認された高温の影響	報告箇所数					普及センターが指導した技術対策など	指導箇所数					具体的な事象等		
	県北	県央	鹿行	県南	県西 県内合計		県北	県央	鹿行	県南	県西 県内合計			
出芽不良	-	-	-	-	0	畝間かん水	1	-	-	2	-	3	・R5の高温干ばつで大幅に減収したため注意喚起を行ったが、一部台地畑ほ場において落花や着莢不良が見られ、減収が見込まれる(県北)。 ・関係機関とともに適期防除、適期収穫の巡回指導を行った。一部ほ場では莢数の減少や青立ちも見られたが、概ね平年よりも良好な生育状況(県央)。 ・害虫や雑草対策、適期収穫の資料を配布し、注意喚起を行った。R5に多発した褐斑粒対策として、種子消毒剤の変更を指導した結果、褐斑粒の発生は抑えられた(県央、県南)。 ・開花期の畝間かん水を指導したが、実施は一部ほ場のみにとどまった(県南)。 ・生育初期にヨトウムシ類の発生を確認したが、一度殺虫剤を散布したのみで抑えられた(県南)。 ・播種は、ほぼ平年並みに進捗し、発芽不良もなく初期生育は順調であった。カメムシについて被害粒が目立ったため、防除時期の改善が必要と思われた。収穫時期および収量は平年並み(県西)。 ・品質はやや小粒傾向(生育が良く莢数が多かった)。1等が少なく、2等の割合が多い(県西)。	
落花及び着莢不良	1	1	-	2	4	収穫適期の指導	-	1	-	2	1	4		
青立ちおよび成熟遅延	1	2	-	2	1	6	殺虫剤の適期散布(追加防除)	-	1	-	2	1		4
病害(葉焼病など)	-	-	-	-	0									
害虫(チョウ目幼虫、カメムシ)の多発	-	1	-	3	-	4								

注) 報告箇所数および指導箇所数は、県内12普及センター中の箇所数。調査を実施した12月時点での報告内容であるため、見込みとしての表現を含む。鹿行地域は大豆の作付自体がかなり少ない。

【補足情報】

- ・令和7年2月末現在、普及センター等からの情報によると、青立ちの発生が見られた一部のほ場では、不稔や子実肥大不良による収量低下や収穫の遅れに伴うその後の麦播種作業の遅延等が報告されていますが、県内大豆主産地である県西地域を中心に、県内全体としては、概ね平年並みの収量が確保される見込みです。
- ・品質面では、全県的に小粒傾向がみられると共に紫斑・褐斑粒や虫害等の被害粒の発生がやや多いといった報告があがっています。今後、最終的な単収や農産物検査結果等のデータがまとまり次第、高温の影響調査結果と照らし合わせて検証する予定です。

2. 今後の安定生産に向けて

大豆作における高温の影響は、干ばつも含めて今後頻繁に起こりうる気象リスクとして考え、可能な限り対策を講じるべきですが、対策技術として行えるものは少ないのが現状です。代表的な対策技術には、①開花期以降の干ばつに対する「畝

間かん水」や②病害虫の発生状況(特にカメムシ類による吸汁被害の多発・長期化)に応じた「適切な防除」の実施があります(表2)。

なお、安定栽培のための基本技術でもある③適正な播種(播種期、播種量、播種密度、播種深度等)による良好な苗立ちと初期生育の確保、④排水対策(額縁明渠等はかん水にも使用可能)、⑤適期収穫(成熟遅延に合わせた収穫)は、高温干ばつによる収量品質低下の低減にもつながります。まずは基本技術の励行を心がけましょう。



写真2 カメムシによる吸汁や紫斑粒等の被害粒が多発した大豆

表2 ダイズカメムシ類防除のポイント ~農研機構作成「ダイズカメムシ類対策マニュアル(2020年3月)」より引用、一部改変

◆薬剤防除は、ほ場での発生状況を観察しつつ【大豆の生育ステージに合わせた実施】が効果的
◆ダイズカメムシ類には【有機リン系やネオニコチノイド系】の殺虫剤の効果が高い。
◆ピレスロイド系殺虫剤の一部はダイズカメムシ類に対して効果が低い。
◆通常のカメムシ被害程度であれば、【子実肥大初期(開花30~40日後)に1回】薬剤散布を行う。
◆カメムシ被害の多発が予想される場合、【莢伸長後期(開花20~30日後)と子実肥大中期(開花40~50日後)の2回】薬剤散布を行う。
◆2回の防除でも密度が高い場合は、【追加で2回目の10~14日後】に3回目の防除を検討する。

3. 水稻品種「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培方法

茨城県農業総合センター農業研究所 水田利用研究室 松崎 誠 司

「にじのきらめき」は、収穫量が多く、イネ縞葉枯病抵抗性を持ち、高温耐性に優れ、玄米外観品質が良く、粒が大きいという特徴を持つ水稻品種です。令和3年に本県の準奨励品種に採用され、令和6年に指定区分の改訂により、奨励品種へ格上げされました。本県における作付面積は今後も拡大が見込まれることから、「にじのきらめき」の収量・品質を安定的に確保するための栽培方法を明らかにしました。

1. 移植適期

4月下旬移植及び5月中旬移植は、6月上旬移植よりも収穫量が1～2割多くなります(図1)。加えて、5月中旬移植は、検査等級が概ね1等であり、千粒重は他の移植時期と比較して最も重く、米粒が大きくなります。4月下旬移植は、検査等級が低下する傾向があり、全移植時期の中で最も米粒が小さくなりました。これらのことから、5月中旬の移植が本品種に適しています。

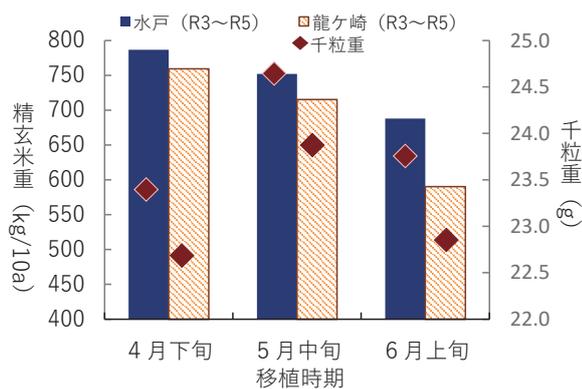


図1 移植時期の違いが「にじのきらめき」の収量に及ぼす影響

※坪50株、基肥窒素9+追肥窒素3kg/10a、出穂前25日に追肥

2. 適正な施肥

① 基肥窒素量

収穫量が最大となる基肥窒素量は、回帰式より10kg/10aです。この施肥量は、「コシヒカリ」の慣行施肥量に対して1.6倍に増やした水準です。この施肥量における玄米粗タンパク含量(目標6.5%以下)は、回帰式より6.4%であり、目標値を達成できると試算されます(図2)。基肥窒素量3~15kg/10aの範囲では、倒伏はほぼ見られません。

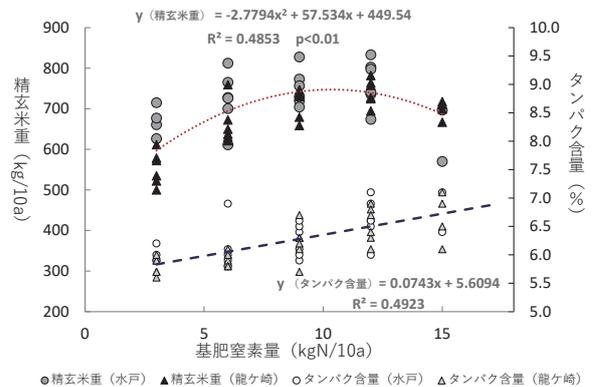


図2 基肥窒素量の違いが「にじのきらめき」の収量と玄米粗タンパク含量に及ぼす影響

注) R3~R5、栽植密度:坪50株、移植時期:5月中旬、施肥量:追肥3kgN/10a、出穂前25日を目安に追肥

② 追肥適期

また、追肥時期について、出穂前30~15日がそれ以降の追肥よりも多収でした(図3)。千粒重は、出穂前30日22.6gと比較し、出穂前25~15日では23.5~23.9gと重くなります(表1)。そのため、追肥は出穂前25~15日が適しています。

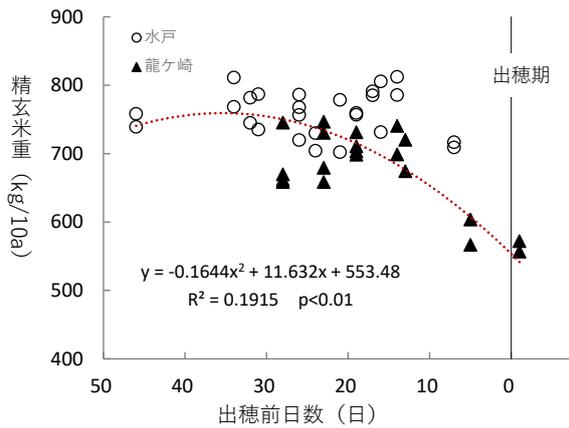


図3 追肥時期の違いが「にじのきらめき」の収量に及ぼす影響

注) R3~R5、(出穂前7日~出穂期追肥はR5)
 栽植密度：坪50株、施肥量：基肥9追肥3kgN/10a

表1 追肥時期の違いが「にじのきらめき」の品質に及ぼす影響

試験区名	千粒重 (g)	玄米粗 タンパ ク含量 (%)
30日前	22.6	6.2
25日前	23.7	6.1
20日前	23.5	6.3
15日前	23.9	6.2
7日前	23.2	6.4
0日前	22.9	6.2

3. 経営評価

「コシヒカリ」を10ha、飼料用米を10ha作付けする20ha規模の水稲経営体において、「コシヒカリ」から「にじのきらめき」に品種を転換する場合、「にじのきらめき」の導入面積が3ha以上で経営体の所得が10%以上向上すると試算されます(表2)。本品種の高品質安定多収栽培により、夏季の高温に対応した水稲栽培による経営の安定化が期待できます。

農業研究所では令和6年度に「にじのきらめき」栽培ごよみを作成し、ホームページ(次のQRコード)で公開していますので、栽培の参考にしてください。



表2 20ha規模の水稲経営体における「にじのきらめき」の導入効果

用途	品種	導入前			導入後		
		面積	収量	所得	面積	収量	所得
主食用	コシヒカリ	10	510	3,022	7	510	2,116
主食用	にじのきらめき	0	710	0	3	710	1,641
飼料用	夢あおば	10	700	3,816	10	700	3,816
	合計	20	-	6,839	20	-	7,573

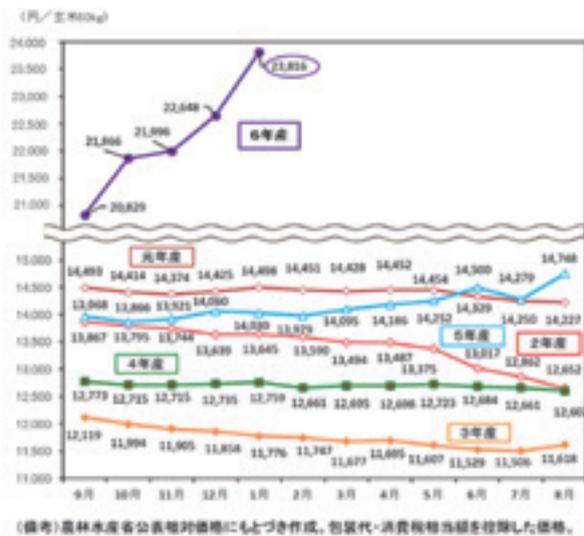
4. 米穀情勢について

全農茨城県本部

1. 6年産米価格の動向

- (1) 農林水産省が公表した6年産令和7年1月相対販売価格（税別・包装抜換算）は、23,816円/60kgと、前年同月と比べて+9,786円となっています
- (2) 主要銘柄の6年産市中価格は、5年産価格（6年9月）から+2,000円程度上昇して出回りが始まりましたが、その後、11月以降急激に上昇し、1月下旬から43,000円を超える価格で推移しています。なお、市中価格は民間業者間のスポット的取引価格であり、流通量は限定的です。

【図表1】相対取引価格の推移（1月末）



【図表2】5年産・6年産市中価格（2月）



2. 6年産の作柄概況

- (1) 農水省が12月10日に公表した「令和6年産水陸稲の収穫量」によれば、予想収穫量(主食用)は679万ト(前年+18.2万ト)と見込まれています。また、10a当たり予想収量は540kg(平年作と比べ+3kg)と見込まれ、全国の作況指数は101となりました。
- (2) 産地別に見ると、「良」(106以上)は岩手・宮城、「やや良」(102~105)は北海道・青森・秋田・福島・福井・熊本などの15県、「平年並み」(99~101)は栃木・長野・石川・兵庫・大分など21県、「やや不良」(95~98)は山形・新潟・福岡などの9県となっています。

3. 今後の需給見通し

1月に開催された食糧部会における「今後の需給見通し」では、令和7年6月末民間在庫は158万ト(前回(10月指針)と比べ▲4万ト、前年(6年6月)と比べ+5万ト)と示されました。

また、7年産の生産量は683万トで据え置かれ、令和8年6月末民間在庫は178万トと示されました。

【図表3】今後の需給見通し (1月31日食糧部会より)

項目	算式	10月	
		基本指針	1月基本指針
6年6月末民間在庫量	A	153	153
6年産主食用米等生産量	B	683	679
供給量計	C=A+B	836	832
需要量	D	674	674
7年6月末民間在庫量	E=C-D	162	158
7年6月末民間在庫量	E	162	158
7年産主食用米等生産量	F	683	683
供給量計	G=E+F	846	841
需要量	H	663	663
8年6月末民間在庫量	I=G-H	182	178

注) ラウンドの換算で単位が一致しない箇所がある。

5. がんばる種子生産者！



J A北つくば 岩瀬大豆採種組合
組合長 柳田 敏之さん

◆ 経営規模

- ・ 水稲 25ha
- ・ 麦類 25ha
- ・ 大豆 20ha (うち採種 3ha)
- ・ そば 5ha

◆ 主な保有機械

- | | |
|---------|----|
| ・ トラクター | 7台 |
| ・ コンバイン | 4台 |
| ・ 乾燥機 | 5台 |
| ・ 色彩選別機 | 1台 |



トラクター



コンバイン



乾燥機

◆ 品質向上の取組

堆肥の投入による土作りを行っているほか、連作にならないよう作付する圃場を毎年変えています。

また、近年は病害虫が大量に発生する傾向にあることから、防除効果の高い農薬を使用して対策を行っています。

◆ 栽培管理

圃場管理ソフトや電子地図などで圃場を整理し、適切な時期に防除や刈り取りが出来るように努めています。

また、除草の時期には従業員の増員を行い、徹底的な防除を行っています。

今後はドローンなどを利用し、作業の省力化や効率化ができるように取り組む予定です。

◆ 今後の抱負

品質を落とさないよう自分の管理できる規模で、J Aや普及センターと連携した優良種子の生産に励んでまいります。

6. 穀物改良部ニュース

(1) 水陸稲種子生産委託会議を開催

2月26日(水)、令和8年播種用水陸稲種子生産委託会議が開催されました。同会議では、県の水陸稲採種計画を基に種子生産計画が決定され、種子場農協へ各種子の生産が委託されました。

令和8年播種用水陸稲種子生産計画

	品種名	数量 (kg)
水稲うるち	コシヒカリ	912,000
	あきたこまち	166,200
	ふくまるSL	66,000
	ゆめひたち	9,000
	一番星	5,500
	あさひの夢	10,000
	にじのきらめき	295,000
	ひたち錦	1,000
	ミルキーQueen	36,200
	あきだわら	13,000
	その他	7,000
	水稲うるち計	1,520,900
水稲もち	マンゲツモチ	33,560
	ヒメノモチ	1,680
	水稲もち計	35,240
も陸ち稲	ひたちはたもち	1,000
	陸稲もち計	1,000
飼料用	夢あおば	25,000
	月の光	15,000
	飼料用計	40,000
合計		1,597,140

(2) 茨城県採種部会協議会視察研修を実施

1月16日(木)、茨城県採種部会協議会(会長:谷田部貞雄氏)による視察研修が実施され、会員等28名が参加しました。

農研機構 農業機械研究部門(埼玉県さいたま市)にて、農作業安全に関する講習を受け、作業効率を向上する機械技術の研究や安全を確保するための研究について話を伺いました。

株式会社金子農機(埼玉県羽生市)では、乾燥機の機能・構造に関する講習を受けたほか、製造ライン等の視察を行いました。



令和6年度第68回茨城県稲作共進会受賞者名簿

正賞	氏名	市町村	特別賞
最優秀賞	(有)根本農場	つくば市	農林水産大臣賞
優秀賞	(株)みねしまふぁーむ	那珂市	茨城県知事賞
	(株)サンフレッシュ美浦	美浦村	茨城県議会議長賞
優良賞	上金 昭	那珂市	茨城県農業協同組合中央会会長賞
	(株)ぎうち農産	稲敷市	全農茨城県本部運営委員会会長賞
奨励賞	和田 好央	日立市	
	露久保 進	大子町	
	萩谷 龍司	常陸大宮市	
	佐藤 晃一	水戸市	
	松田 健一	笠間市	
	岡田ファーム	石岡市	
	根本 祐輔	稲敷市	
	東郷 直樹	つくばみらい市	
	(有)関農産	つくば市	
	(株)亀岡ファーム	桜川市	
(株)ブライトファーム大久保	古河市		



令和6年度第35回茨城県そば共進会受賞者名簿

正賞	氏名	市町村	特別賞
最優秀賞	農事組合法人美浦エコアグリクラブ	美浦村	茨城県知事賞
優秀賞	(有)水府愛農会	常陸太田市	茨城県議会議長賞
優良賞	西島 成和	阿見町	茨城県農業協同組合中央会会長賞
奨励賞	上稲田営農組合	笠間市	

【速報】 令和6年度全国そば優良生産表彰事業において、農事組合法人美浦エコアグリ様が(一社)全国農業協同組合中央会会長賞及び全国蕎麦製粉協同組合理事長賞を受賞されました。